国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4 年次生 田中 瑚子

1. はじめに

私は国際交流基金の助成を受け、8 月 21 日から 8 月 28 日まで行われたバンクーバーサマープログラムに参加いたしました。このプログラムでは基本午前は語学学校で授業を受け、午後は様々な医療施設の見学や、現地で働く医療関係者の方々からお話を聞かせていただきました。また、滞在中はホームステイをさせていただきました。

2. 渡航前に考えていた自分の目標

まずは、積極的に外国の人とコミュニケーションをとることを 1 番の目標としていました。また、第 2 の目標として失敗を恐れずになんでもチャレンジするということを目標としていました。

3. その目標は渡航後どうだったか

私は、積極的に外国の人と関わることができたように感じます。授業の後の昼休みの時間などにも担当してくださっている先生に自ら話しかけに行ったり、ホストファミリーの方ともたくさんコミュニケーションをとらせていただきました。これにより、英語への考えが話しても伝わるか不安だから話さないでいようというものから、とりあえず話してみれば何とかなるという風に変わり、自分の中で英語へのハードルが下がったように感じます。

4. これからの自分

今までは積極的に人と関わることをしてこなかったのですが、今回たくさんの人とコミュニケーションを積極的に図ることによって楽しく感じ、もっとたくさんの人と交流をしたいと考えるようになりました。普段の生活ではもちろん、より英語を勉強して外国の人ともたくさんお話できる機会を自ら作っていけるといいなと考えます。また様々な文化を肌で感じることが出来、様々な価値観を知ったので、より一人一人に寄り添うことが出来るよ

うになっていきたいと考えます。

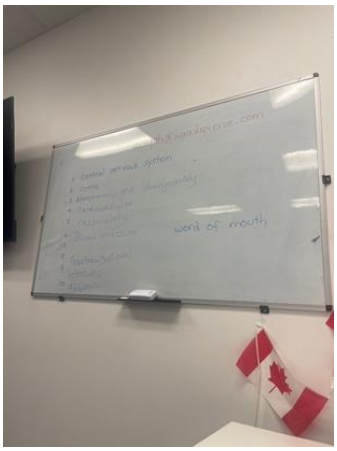
5. 医療施設見学

医療施設見学では、現地のクリニックに伺わせていただいたり、薬局に訪問したり、看護師さんからのお話を聞いたりしました。その中で思ったことは、日本とカナダの医療体制はかなり違うということでした。カナダでは医療費が全て無償化されている分、医療の不足が問題としてあげられます。まずクリニックにかかりその後専門医に診てもらうという流れになるので、必要な治療を受けるまでに 2～3 ヶ月かかるそうです。

また、薬局には薬剤師とテクニシャンと呼ばれる人がいます。テクニシャンとは、薬剤師の補助的な仕事をする人のことです。日本の薬剤師業務との大きな違いは、インフルエンザなどの予防注射を患者に打つことができることだと思いました。そのため、ワクチンが薬局に沢山常備されていました。この制度は、患者にとってもクリニックに行くよりも手軽なので効率的だと感じました。また、麻薬を取り扱うということも大きな違いだという風に感じました。バンクーバーでは、麻薬をしている人がたくさんいるということで、合法的に薬として扱うことで、少しでも麻薬で死んでしまう人を減らそうとしているようでした。麻薬の取り扱いはかなりあるようで、日本であれば麻薬保管庫のような鍵のかかった厳重な保管庫に保存されるところをすぐに触れるところに置いてあるところも驚きました。また、麻薬は患者さんの様子なども見ながら扱わなければいけないすごく難しいものだということをお話を聞いていて感じました。

6. 語学学習

たくさんの医療に関する英語を教えていただきました。難しく分からない単語などもたくさんあったのですが、英語で噛み砕いて分かりやすい説明をしていただくなど丁寧に教えていただき、たくさんのことを学べたように感じます。また、自分の言葉で発表をするなど英語に自信がなくても積極的に手を挙げて発表することによって思っていたよりも話すことが出来るという自信に繋がりました。



7. おわりに

このプログラムで日本とカナダの医療提供体制の違いや文化の違いなど様々な違いを学ぶことが出来ました。1 週間というとても短い期間ではありましたが、とても濃密で素敵な時間を過ごすことが出来ました。どちらの医療制度にもいい面も問題点もあることを感じ、プログラムに参加しなければ気づかなかったことで、視野を広げることが出来たと感じます。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。